

# ～岩手・当時の首長等、7割が合併して良かった～

平成31年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：ポスト「平成の大合併」時代における自治に関する調査研究

研究代表者：総合政策学部 教授 高橋秀行

課題提案者：岩手県政策地域部市町村課 小原重幸・石川一行

研究メンバー：栗田但馬（総合政策学部）、齋藤俊明（研究・地域連携本部）

技術キーワード：地域マネジメント

## ▼研究の概要（背景・目標）

本研究では、「自治体戦略2040構想研究会」報告書が公表され、将来の自治体行政の大きな転換が提起される中、「平成の大合併」までさかのぼり、岩手を事例に、①合併協議の全実態、②合併効果を明らかにし、自治を問い直してみた。

## ▼研究の内容（方法・経過）

主な実施方法（取組み）は、合併当時の首長・議長等16人（4つの合併市の旧市町村単位）に対して合併協議や合併実績に関するインタビュー調査を、対面式で実施した（オーラル・ヒストリー）。その内訳は首長9人、議長4人、助役3人（首長等の逝去の場合）である。

## ▼研究の成果（結論・考察）

合併の評価は、非常に良かった1人、少し良かった10人、非常に悪かった2人、どちらとも言えない3人となった。合併効果はとくに広域的なまちづくりで大きかった。合併に際していわば周辺市町村の動向が決定的となったが、合併過渡期（移行期）が依然として継続しており、地域・自治体がどのように向き合うかで自治の姿は変わってくる。

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

インタビュー調査から、自治の展開について次のような示唆を得た。ポスト「平成の大合併」時代の行政が優先的に展開されるかもしれないし、あるいは周辺市町村があまりに大きな合併の代償を払うことになるかもしれない。今後の具体的な展開として、①インタビュー調査および合併協議の特徴の整理を継続する。②『合併協議・証言録』を出版する。合併時の首長、助役、議長には長時間のインタビューに真摯に対応していただき、この場を借りて感謝を申し上げます。

### 《岩手の平成の大合併》

- 1) 大船渡市・三陸町→大船渡市
- 2) 宮古市・新里村・田老町→宮古市
- 3) 西根町・松尾村・安代町→八幡平市
- 4) 一関市・花泉町・川崎村・大東町・千厩町・室根村・東山町→一関市
- 5) 遠野市・宮守村→遠野市
- 6) 沢内村・湯田町→西和賀町
- 7) 花巻市・石鳥谷町・大迫町・東和町→花巻市
- 8) 種市町・大野村→洋野町
- 9) 二戸市・浄法寺町→二戸市
- 10) 盛岡市・玉山村→盛岡市
- 11) 水沢市・江刺市・胆沢町・前沢町・衣川村→奥州市
- 12) 久慈市・山形村→久慈市
- 13) 宮古市・川井村→宮古市
- 14) 一関市・藤沢町→一関市

### 《質問の主な構成》

- 合併の必要性
- 合併までの状況
- 合併の評価
- 今後の課題

### 《合併の評価》

